

ジャック・ザ・リバー セラピー
 〈切り裂き魔〉的外科療法 vs. 未来派療法

エニフ・アンジョリーニ・ロバート Enif Angiolini Robert (1886-1976) 著

アブド・メン サージカル・ロマンス
 『女の腹部 — フィリッポ・トンマーズ・マリネッティ共作外科小説 UN VENTRE DI

DONNA: romanzo chirurgico con Filippo Tommaso Marinetti』 (Facchi, Milano 1919) 邦訳 (その4)

清瀬 卓

〈Sommario〉

Il motivo principale per cui l'autrice ha dato al suo romanzo un sottotitolo “con Filippo Tommaso Marinetti”, risulta chiaro nella parte conclusiva. Perché la storia autobiografica della protagonista prosegue quasi parallela con le corrispondenze scambiate con il suo maestro futurista. Marinetti vuole consigliarle di rafforzare il potere della sua immaginazione, per farla uscire dalla sua crisi fisico-psichica fino a raggiungere al nuovo stato d'animo in cui lui stesso ormai si trova.

Nei tempi di Enif Robert e di Marinetti, S. Freud (1856-1939) ha inventato una nuova teoria della psicoanalisi nella medicina mentale, mentre A. Einstein (1879-1955) ha dato una nuova visione al megacosmo con la sua teoria della relatività. La vecchia chirurgia tradizionale, quindi, è stata presa in giro dalla nostra scrittrice nell'ultimo episodio apparentemente allegorico.

11. 慾望・想像力療法の^{マニュアル}手引き

(MANUALE TERAPEUTICO DEL DESIDERIO-IMMAGINAZIONE)

1) 動ける人々には、〈速度〉という極めて有効な治療法が思いのままになる。

病床で身動きがままならない患者は、想像力の力を借りて、自分の身の回りにある物品^{アイテム}や家具をことごとく変容させなければならない。彼らは、それらを賞讃し、上品なものにして、組み合わせを作り、典型的に個人的な一種の楽園^{パラダイス}を築き上げることになる。

カップ スプーン オマル こびん アイテム
 茶碗や匙や洗面器や寝室用尿瓶や小瓶といったあらゆる物品は、想像力の徹底したモディフィケーション
 改変に敏感だ。それは、想像力の強度の問題なのだ。想像力は、あらゆる筋肉のように、
 鍛えられるものだ。

ベッドカバーは、高山の風景を無数に演出できる。それは、^{あなた}貴女の脚が^{あし}愉快地地震の動きを伝えることができる氷雪^{ひょうせつ}の湾曲部^{わんきょく}や純白^{クレバス}の奈落^{がけくず}や崖崩れなどだ。

^{あなた}貴女のテカテカの小さな^{エナメルシューズ}琺瑯靴^{ダイヤモンド}は、^{ちりば}金剛石を^{へさき}鏤めた小さな舐先^{ベッド}で、これから窓の下に見える^{あなた}苦悩の黒い海に進水しようとしているところだ。病床上で身動きできない患者の貴女は、その小さな靴^{のうこん}で濃紺^{のうこん}の苦悩の優しい海へと船出するのだ。

あなたあなたの美しいブラウス洋装レースの刺繍ミニアチュールによって、その心じよじょうに中世の細密画家の抒情が吹き込まれる。彼と共に大聖堂の七色のガラス窓カシードラルによじ登って、悪魔と叡智ある処女えいちがつるむ猥らな姿を描くのだ。こうして、色香の失せた不感症の聖母ひからと干乾びた聖者を消し去るのだ。

やがて日曜日カシードラルがやってくる、大聖堂内ながで起こる事件を眺めやりながら、中世の細密画家と二人して愉しむのだ。その時、助祭や司祭やベギン会修道士たちは見上げながら、タバコ臭い鼻と瘦せこけた頬たのつぺたを、空恐ろしいまでに背徳的な貴女のガラス窓あなたの火災ステンド・グラスに向けるであろう。アフリカの風アフリカと太陽うは、光が失せた小さな中世の街まちの上に集中し、その風と太陽によってガラス窓ステンド・グラスは爆撃されて炎上する。

嫌われた薬壇くすりびんは、貴女の病床あなたに近付いてくる屈強な美男の背中とんごの形ガラスをしている。ところが、それは硝子製品だ。そして、想像力は頓挫する…

薬壇くすりびんを手にとって、壁あなたに投げつけて割ってしまいなさい。貴女の活力あなたを貪欲エネルギーに吸い取ってしまうから、常に危険な絶対的静寂けんそくを、暴力的な喧騒で、ぶち破る必要がある。

掛け蒲団ベッド・カヴァーの雪アルプスの造形する貴女の脚あなたの動きと、今あなた貴女の小さな靴おきあいを沖合へと運んでゆく風と相俟って、砕け散った硝子がたてる轟音を聞けば、ちよっぴり火照った貴女の顔あなたとすでに優しく結びついている満々と水をたたえた洗面器の静かな湖の静寂あなたを、きっと貴女はあらためて欲しいと思うようになることだろう。

2) 病床あなたに釘付けになっている貴女が、必要な運動をすべて嫌って過小評価しようとする身体的悲観論ベシムズムに陥らないように細心の注意を払いなさい。貴女は、あらゆる運動に先立って瞑想するようにしなさい。一杯の水を飲む前に、喉のどから胃袋の中へ飲み込もうとする口蓋こうがいの動きに逆らって、少なくとも半時間は唇くちびるや舌で水の存在を考えるのです。

水が飲みたいという欲求を苦しくなるまで強めなさい。そして、水の冷たさという愉快な考えが貴女から溢れ出ようとする刹那あなたに、洋杯の水をゆっくりと飲み干しなさい。

一杯の牛乳ミルクにも、同じだけの瞑想を要求するのです。鶏肉の手羽先のことを少なくとも1時間は考えなさい。単なる栄養価だけでなく、例外的な強靱さを貴女に授けてくれる磁氣的な力チキンを、肉を賞味する上で首尾よく賦与するようにしなさい。

同じ手順で、毎日のお化粧もやってもらいたい。顔を洗う前に、その行為について考えてみるのです。毎日の爪の手入れは、芸術作品にならなければなりません。思索と行為を交互に調和させながら、すべてを組織立てて予行演習するのです。

病気のことで愚痴をこぼしたりメソメソしたりして貴女の日を無駄あなたにせず、むしろ思索むだに専念し注意と好感を集中させることで、ささやかな肉体の要求と快感の最大限の見返りが得れるようにしなさい。

3) 未来派の本を数冊読んで下さい。

4) 幾つかの個人的な話題トピックを見つけ、弁論術トレーニングの訓練を課して、未来派療法の効果かいふくと恢復力の素晴らしさを、きっと保守主義者に違いない貴女の主治医と一緒に讃えていただきたい。

5) 毎日、「わたくしは完治した」と何度も唱えなさい。こうして11日目が終われば、きっと

あなた
貴女の病気は治っていることでしょう。

めいゆう
盟友よ、未来派療法の効果について書いて下さい。ご健勝をお祈り致します。

E.T. マリネッティ拝

12. 腹部から最前線へ (DAL VENTRE AL FRONTE)

エニフ・ロバートからマリネッティ様へ

《マリネッティ様、わたくしは、御高著『慾望・想像力療法の手引き』を熟読致しました。素晴らしい著作だと信じています。

わたくしは、貴殿の療法を開始しました。櫛のことを、一心不乱に考えました。わたくしの思索は、川の流れるような頭髮の中に、鉄柵のようにスッと入り込みました。踊って、屍体をひっくり返しなが、鉄格子にぶつかったりしました。嬉しいことに、その中にオーストリアの制服を認めました。伊太利軍の勝利の晩、イゾンツォに居合わせた感じがしました。

酷暑の夏の晩、わたくしは服を脱ぐと、全裸で頭髮の川に入ってゆきました。愉しい水浴び。わたくしは、屍骸を一体一体と調べました…。おお、南無阿弥陀仏！無残に去勢された紅顔の美男子山岳兵。わたくしは、維納女性がエチオピア女性と張り合い、伊太利人捕虜の精気を吸い取ってしまうなどと考えました…

翌日の夜、わたくしの想像力はオーストリア皇太子の食卓に連なっていました。巴里の化粧室で妊娠させられた公爵夫人のとても優美な二つのお腹に挟まれていましたが、それらのお腹は、突然に破裂したのです。

ダイナマイト
爆薬のような伊太利男の精力！

想像力は、実に偉大な治療の効力を持っています。わたくしは恢復し始めています。熱は39度です。40度の熱がぶり返すのではと、わたくしは戦々競々としています。

お手紙を下さいませ。お便りが、わたくしには何よりの治療です。

エニフ・ロバート拝》

マリネッティからエニフ・ロバート様へ

《拜啓 40度の高熱がぶり返すのではないかと心配されているようですが、それは間違っています。危険に慣れる必要があります。

詰まるところ、小生も貴女と同じ状況に立たされています。貴女は病床に、小生は泥濘の塹壕に釘付けにされています。機銃掃射かサン・マルコ手榴弾に曝される危険覚悟の上です。

でも、小生は塹壕の中を肩で風を切って見廻っています。それは、死神が予期せぬ時に取り付くような状況下で、自分の神経を制御しているからです。その死神は、絹の長い裳裾を木々に引っ掛けてズバズバにし、無名の人々の頭の上では火炎の扇子を、また往々に讚美者の顔の上

で爆発性の宝石が入った宝石箱をぶち壊しながら上の階で踊っています。

我々の優雅そのものの女主人の蜜行に小生が慣れっこになっているように、貴女は40度の発熱の脅威に慣れなければなりません。

月が出ると、多産な飛行機が我々に炸裂する卵を括約筋のように支払ってくれます。

要するに、我慢するのです。危険愛に誇りを持って、40度の発熱を直視するのです。

ご健闘を祈っています。F.T. マリネッティ拜》

マリネッティからエニフ・ロバート様へ

《拜啓 昨日、塹壕の交代任務を済ませ、身体をきれいにするために、サンタンドレーア村に帰還しました。

我々第73砲兵中隊の将校は、村に残る一軒家の小部屋ひとつだけが自由にできるのです。それは、にわか作りの寝台が藪めく小部屋がひとつだけ残っている傾きかけた陋屋です。

寝台と寝台の間に一脚の椅子を置くスペースすらありません。眠ることが叶うとは思えません。

サンタンドレーア村は、まるで砲撃の坩堝のようです。奥太利軍の攻撃が予告されていました。かかる状況下、我々は出来る限り身体をきれいにした後で、11時に腑抜きされた村落の廢墟の中を、軽業師のように高い壁と体操選手のようなもの影に沿って行軍体勢を取りました。

その棲家に75ミリクルップ砲⁵⁵⁾が、一斉に覚醒します。怒り狂って、立て続けに不穏で凶暴な砲火を吐きます。

ドカン、ズシン、ドカン、ズシンと、家屋の残骸に命中して炸裂します。

生後2ヶ月の雌の野犬牧羊犬〈ギャビー〉が、小生について来ます。そのうち紹介します。こんもりと生い繁った黒い森の中からニュッとたち現れるような大きな頭をして、強い顎にとてつ鋭い牙とひ弱な体つきの犬ですが、日ましに逞しくなって、毛並みは獅子狼のようなのです…首周りに青緑色に見える美しい色輪があります。

ひもじいので、何でも食べます。腐っているものを好むので、排泄物と腐敗した鼠の臭いを放っています。でも、とても賢くて、塹壕の中で吠えたためしがありません。

先の見えない腸のような塹壕通路を我々は辿って行くのです。過酷な迷路です。小生は、鉄兜と小銃の間にある手鍋から逃げ出す野兎を足蹴にします。

ピューン、ピューンと銃弾が頭をかすめます。

奥太利軍の前線に悠長に落下してゆくおっとりとして麗しくも実に女々しくケバいい照明弾。投光器の素早い幾何学的動き。とても不穏な一夜。

真夜中に、我々はヴェルトイバに辿り着きます。薄汚れた黄色い月が、出来ることなら、破壊し尽された泥まみれのあばら家を汚してやろうとします。あちらこちらの壊れた窓硝子に、ピカッと白い閃光が閃きます。

カンプロンネの魂が、廢墟の凶太い綱渡り芸の上に、反吐が出るようにぼんやりと現れます。

我々は、焼けどして黒ずんだ瓦礫の間に展開します。すると、ヴェルトイビツァ川の泥の岸

辺^{きやつか}が脚^{あし}下^{した}に見^みえます。そこはとても深い泥^ぬ濘^{かるみ}だらけの胆^{たん}汁^{じゅう}質^{しつ}水路^{すいじろ}で、味^{あじ}方^{かた}の兵^{へい}士^しをたくさん呑^のみ込んだ汚^お泥^{でい}と腐^ふ敗^{はい}物の沼^{ぬま}地^ぢです。杭^か上^{じょう}家^か屋^や上^{じょう}に造^{つく}られた塹^{せん}壕^{ごう}と小^こさな架^か橋^{きょう}がありま^あす。これ^これ^れからソベル^その丘^{かみ}陵^{りやう}地^ちを登^{のぼ}ってゆ^ゆきま^ます。そこは穴^{あな}だらけで、切^きり刻^ぎまれ、疲^ひ弊^{へい}して蜂^{はち}の巢^{すだま}状^{じょう}で、電^{でん}話^わ線^{せん}網^{もう}が絡^{から}ま^まつてい^いま^ます。滑^{すべ}りや^やすい鉄^{てつ}条^{じょう}網^{もう}。

小^こ生^{せい}の鉄^{てつ}兜^{たう}が、そこを通^{すべ}過^かしようとする者^{もの}に自^{みづか}分^{ぶん}の高^{たか}さを絶^たえず調^{てい}整^{じょう}するよう^{よう}に強^{つよ}いる電^{でん}話^わ線^{せん}網^{もう}にぶち当^{あた}ります。

我^{われ}々^らは、砲^{たう}兵^{へい}中^{ちゆう}隊^{たい}の通^{てい}信^{しん}観^{かん}測^{そく}所^{じょ}に辿^{たど}り着^ききま^ました。奥^{おく}太^{たい}利^り軍^{ぐん}から50メー^まトル地^ち点^{てん}です。

味^{あじ}方^{かた}の大^{だい}砲^{たう}は、押^おし黙^{だま}ったま^まです。小^こ生^{せい}は、最^{さい}前^{ぜん}線^{せん}の手^て応^{おん}えを^を実^{じつ}感^{かん}しま^ました。小^こ生^{せい}は正^{せい}確^{かく}な体^{たい}温^{おん}計^{けい}な^なの^のです。戦^{せん}闘^{とう}の予^よ感^{かん}をヒシと感^{かん}じてい^いま^ます。小^こ生^{せい}が指^{さし}令^{れい}を^を与^よえま^ます。

「零^{ぜい}時^じ30分^{ぶん}、我^{われ}が軍^{ぐん}は突^{とつ}撃^{げき}を敢^{かん}行^{こう}する。電^{でん}話^わの調^{てい}子^しはど^どうか？」

「ま^まったく問^{もん}題^{だい}ありま^ませ^せん。」——マ^まツ^つラ^らが^が応^{おん}え^えた。

突^{とつ}如^{じゆ}、パ^ぱーン、パ^ぱーンと右^{みぎ}翼^{よく}か^からも左^{ひだり}翼^{よく}か^からも発^{はつ}砲^{ぱう}してき^きま^ます。正^{せい}面^{めん}に火^かの粉^{こな}があ^あが^がりま^ます。ダ^だダ^だダ^だダ^だダ^だと機^き銃^{じゆう}の音^ね。味^{あじ}方^{かた}の背^{せい}後^ごで、焔^{えん}をか^かいて、ゴ^ごロ^ろゴ^ごロと小^こ太^{たい}りな男^{おとこ}が転^{ころ}が^がってゆ^ゆきま^ます。

ピ^ぴューン、ガ^がラ^らガ^がラ（38度^どの発^{はつ}熱^{ねつ}）

幸^{さい}いにも、味^{あじ}方^{かた}の第^{だい}58A砲^{たう}兵^{へい}部^ぶ隊^{たい}が砲^{たう}火^かで^で応^{おん}戦^{せん}して^{して}くれ^れま^ます。

ズ^ずド^どーン、ズ^ずド^どーン、ガ^がラ^らガ^がラ

フ^ふィア^いット社^{しゃ}製^{せい}重^{じゆう}機^き関^{かん}銃^{じゆう}56^ごが、小^こ生^{せい}の眼^{がん}と鼻^びの先^{さき}で覚^{かく}醒^{せい}しま^ます。怒^{いか}り狂^{きやう}った交^{かう}響^{きやう}楽^{らく}団^{だん}の反^{はん}復^{ふく}全^{ぜん}奏^{そう}です。我^{われ}々^らは轟^{ごう}音^{おん}の渦^{うず}中^{ちゆう}に^にい^いま^ます。頭^{かぶ}上^{じやう}を、弾^{だん}丸^{まる}が絹^{きぬ}を裂^きくよ^ような音^ねを立^たてて翳^{かす}めま^ます。や^やが^がて、白^ま砲^{ぱう}が火^かを吹^ふき始^{はじ}めま^ます。

ズ^ずド^どーン、ズ^ずド^どーン、ズ^ずド^どーン、ズ^ずド^どーン、ズ^ずド^どーン

アナ^{あな}ス^すター^たージ^じ連^{れん}隊^{たい}長^{ちやう}の^の声^{こゑ}が^がし^しま^ます。

「畜^{ちく}生^{じやう}！ …右^{みぎ}翼^{よく}が突^{とつ}破^ぱされ^れたぞ。第^{だい}75部^ぶ隊^{たい}に電^{でん}話^わしろ。ロン^{ろん}キ^き隊^{たい}長^{ちやう}は^は何^{なに}を^をや^やっ^つて^てい^いる^るの^のだ？ 静^{しず}かに^にしろ、ろ^ろく^くで^でな^なし^しめ…撃^うて！ 何^{なに}て機^き関^{かん}銃^{じゆう}だ！ …ガ^がラ^らク^くタ^たじ^じゃ^ゃな^ない^いか！ こ^これ^れは^はフ^ふィア^いット社^{しゃ}製^{せい}じ^じゃ^ゃな^ない！ …で、貴^き殿^{でん}は^は砲^{たう}兵^{へい}部^ぶ隊^{たい}を^を率^{ひき}いて^て何^{なに}を^をし^して^てい^いる^るの^のだ？ …」

「電^{でん}話^わが不^ふ通^{つう}で^であ^あり^りま^ます。で^でも、砲^{たう}兵^{へい}中^{ちゆう}隊^{たい}は^は発^{はつ}砲^{ぱう}して^{して}お^おり^りま^ます。連^{れん}隊^{たい}長^{ちやう}殿^{でん}！」

ズ^ずド^どーン、ダ^だダ^だダ^だダ^だ

バ^ばク^くューン、そ^それ^れっ、パ^ぱーン

ズ^ずド^どーン、メ^めリ^りッ

バ^ばク^くューン、パ^ぱーン、ダ^だダ^だ

バ^ばク^くューン、ガ^がラ^らッ

ズ^ずド^どーン、ズ^ずド^どーン、バ^ばク^くューン、ダ^だダ^だダ^だ（39度^どの熱^{ねつ}）

名^な状^{じやう}しが^がたい混^{こん}乱^{らん}。命^{めい}令^{れい}と命^{めい}令^{れい}却^{きやう}下^かの混^{こん}沌^{とん}。暗^{あん}闇^{くわん}で、飯^{はん}盒^{ごう}や小^{しょう}銃^{じゆう}や鉄^{てつ}兜^{たう}が^が転^{ころ}が^がりま^ます。踏^ふん^んづ^づけ^けたり、ぶ^ぶつ^つか^かつ^つたり、両^{りやう}手^てを^を引^ひき裂^きいた^たり…転^{ころ}落^{らく}して、顔^{かほ}を汚^お物^{ぶつ}中^{ちゆう}に^に突^つっ^つ込^こむ^む有^あり^りま^ます。

で^でも、連^{れん}隊^{たい}長^{ちやう}は^は罵^{のの}声^{こゑ}を^を張^ひり上^あげ^げて、す^すべ^べて^てを^を仕^し切^きっ^つて^てい^いま^ます。救^{きゆう}援^{えん}部^ぶ隊^{たい}が^が詰^めめ^めか^かけて^てき^きま^ます。

指揮官が、小生を砲兵中隊に派遣します。小生は道に迷い、交通壕から出ます。平地を抜けて、砲兵中隊を目指して勘を頼りに進んでゆきます。大きな赤い火炎があがり、小生はマツラの両腕の中に転がり込みます。彼は、一人の砲兵に向かって、この馬鹿野郎、顔半分を火傷したじゃないかと、毒づいている最中です。(熱は36度6分あります。)

「この薄馬鹿。退避しろと云っただろうが！ …」

右翼では、地獄の一斉射撃。それがますます猛烈になり、どんどん接近してきます。そこで、我々は迂回行動をとりました。

突如、砲兵中隊が、機銃中隊に奇襲されます。白砲を死守するには、武器の狙いを定める必要があります。サンドウッチョーネが姿を見せ、小生に右翼の白砲二基が奥太利軍に奪取されたとの悪い伝言を持ってきます。

この瞬間に、盟友よ、40度の熱が出ています。死ぬのは怖くありませんが、捕虜になる可能性に脅えています。

拳銃を小生がいつも携行しているのは、捕虜になるのであれば、即座に自決する覚悟だからです。

心が落ち着いていても、しかし、40度の熱は去りませんでした。一斉射撃と機銃掃射が始まると、次第に熱は下がりました。

アナスタージ連隊長は、一度は奥太利軍に包囲されていながら、逆にその奥太利軍を包囲してゆきました。彼が、洪牙利人捕虜30名を我々の方へ引き立ててきました。交通壕の悪臭に、実際うんざりしていた我々は、その交通壕で彼らに平手打ちを見舞ってやりました。

半時間後、小生は丸麺一個に齧りついていました。

好感の持てる患者さん、貴女の白い塹壕の中で勝利をおさめ、熱が下がれば、ガツガツと食べて頂きたいと願っています。

ご健闘を祈っています。

あなた
貴女のマリネッティ様》

エニフ・ロバートよりマリネッティ様へ

《拝啓 戦場の火炎譚を有難く拝読致しました。今では、わたくしも40度の発熱を直視できます。そして、それに絶対的な敬意を表しています。馬鹿げた治療方法によって、わたくしに胚胎して完成しつつある嘲るような皮肉と無数の新たな欲望をこの発熱に突きつけてやります。

それがどのようなものなのか、貴方にとっては退屈でしょうから申すまい。

防寒用羊毛の靴下を望まれるなら、その旨を書き遣して下さい。今日、わたくしの女友だち(絶世の美女です)が、貴方用にと申して、どっさり持ってきてくれました。

貴方のお便りでわたくしは元気になりますから、お手紙を遣して下さい。わたくしの便りで貴方が暖かい思いをされるかどうか、心もとない次第です。

エニフ・ロバート拝》

さんごう サージカル・ミュージック
13. 塹壕内の外科的音楽

(MUSICA CHIRURGICA IN TRINCEA)

マリネッティよりエニフ・ロバート様へ

《拝啓 この便りが貴女の栄養分にならなくても、せめて愉快的な思いをして頂くよすがとなればと思います。

小生は貴女を真に偉大な音楽劇初演にご招待して、ご一緒にかぶりつきで大手術に立ち合っ頂ぐことに致します。

第37歩兵連隊指揮官アナスタージ連隊長は、目下のところヴェルトイバの最前線に居ますが、絵になる勇敢な傑物です。

彼は50歳になる太鼓腹の細々里人古参兵で、無精鬚を生やし、亜爾箇保兒中毒の灰色の眼をして、鉄条網をズタズタにしてしまう頑丈な顎の持ち主です。(負傷のせいでしょう) 右脚が不自由なので、びっこをひきながらノロノロと歩きます。でも、精力的に昼夜を分かたず歩兵の前線を見廻っては、罵り、飯盒飯を喰らい、鋏を巧みに使います。飲み、食い、ぶっ放し、叫ぶのはお手の物です。彼が連隊のすべてを牛耳っています。兵士たちから大いに崇拜され、一目も二目も置かれている唯一の人物です。

彼は、劇場総監督も呼び出し係も楽団指揮者も兼務できます。

降雨なく快晴と報じられる夕べは、黄昏が真に休息と健康を祝福してくれます。この不潔な瀆の住民に許される衛生環境はひどいものです。寒気にめげず、誰もが身体を洗い、たっぷりと汚濁を吸い込んだ厚手の軍服を洗濯しようとします。

すると、アナスタージは地震で傾いているので補強された砲郭を自分専用に使っていますが、その低い屋根の下から出てくると、長い〈ヴァージニア〉葉巻⁵⁷⁾を口に銜えたまま、両手を衣嚢に突っ込んで将校たちを点呼するのです。

彼は小さな酒盃を素早く3つ4つ配ると、大声を張り上げて叫びます。

「さあ、今晚はアナスタージ連隊長が愉しませてやるぞ。演目一覧は充実しておく。全部有料だ。既に大方の支払いは済んでいる…別の観覧席にいる観客連中に限って料金を払ってもらえないのが残念だ。…」

アナスタージ連隊長は、羅馬尼亞人に格別の好意を抱いています。彼らの何人かが、〈カーサ・ノータ〉前にずらりと整列します。ほとんど毎晩、アナスタージは、彼らに向かって大声で次のような演説をやってみせます。

「羅馬尼亞人諸君！ 羅馬尼亞は伊太利に忠実な同盟国だ。伊太利に刃向かうものは、兄弟に刃向かうに等しい！」

一方で高級副官は、小屋、避難小屋、あばら家、小部屋、交通壕の便所の各所を廻っては、楽団員と金管とコルネットの手配をします。

「隊長に兵隊を近くにとどめ置くように云い給え。…さあ、音楽だ。結構だ。鉄製のマンド

リンを両手に持って、各人部署^{ぶしよ}につけ。全員で音楽^{ミュージック}を直立不動の姿勢^{たの}で愉しむのだ。」

澄み切って凍てつく晩、冴え冴えと最初の星が瞬^{またた}き始める頃になると、実に荘厳な静けさがあたり一帯に広がります。

虫の羽音^{はんこう}と飯盒^{はんごう}のかち合う音。でも、それは、実のところスカラ座の初演^{オープニング}で上がる緞帳^{まく}の静けさです。

『ノルマ』⁵⁸⁾や『ジョコンダ』⁵⁹⁾や『セビリアの理髪師』⁶⁰⁾が、アナスタージのお気に入りです。昨晚の『セビリアの理髪師』序曲の演奏は、素晴らしいものでした。終わったとたんに、アナスタージは手すりから身を乗り出して、大声でこう云います。

「諸君はスロベニア人と洪牙利人^{ハンガリー}の混成部隊と聞いている。洪牙利人^{ハンガリー}諸君、聞いてもらったかな？ これぞ伊太利音楽^{イタリア}だ。我らが偉大なロッシーニ⁶¹⁾の名曲だ！ …ワーグナー⁶²⁾など、もの数ではない。あんな退屈な野郎は！ …諸君が好きはなはずがない。びた一文出すな！ …売女^{ばいた}の臭い腸^{くさ}だ！ …さて、拿破里^{ナポリ}の小唄を聞かせてしんぜよう。…さあ、諸君も一斉に歌って！ 俺^{われ}に続けて！」

【人生とは、この僕の人生のこと！ 心^{ハート}、それはこの心^{ハート}のこと…】

最初はおずおずと、やがては南部人のよく調和した声の大きな波となって、星降る夜に、歌声は爆発しました。その小唄は、ギクシャクと、すすり泣くように、遠く離れた恋人へ別れの接吻^{キス}をうんと込めて、広い湾のまったく融通無碍な自在さと、奇蹟^{きせき}によって姿を現している島々が浮かぶ紺碧^{こんぺき}の海のおっとりした節回^{ふしまわ}りで歌われました。

奥^{オーストリア}太利軍の前線は、実際は茫然自失^{ぼうぜんじしつ}の格好で必死に聞き耳を立てていました。何百もの口と耳と心の注意深い存在が察知されました。彼らは、伊太利^{イタリア}の魔術^{マジック}に混乱しながら耐えていました。時々、実に^{こころよ}快く輝く何発かの照明弾から、露わな腕の女性の実に崇高^{まげゆ}な眩い姿が、もの憂げ^うに、気品あるたおやかな姿態^{したい}で立ち上がりました。彼女たちは、疲弊^{ひへい}しきった風景の不潔な泥まみれの檻^{ぼろ}を、気前よく光りで豊かなものにしてきていました。アナスタージは怒鳴^{どな}っていました。

「諸君の指揮官は、何処^{どこ}だ？ …諸君を指揮^{けだもの}する獣^{でく}、木偶^{ぼう}の坊は何処^{どこ}におるのだ？ …白痴^{はくち}諸君、小生の代理として【前線は小生^{だっしゅ}が奪取した。…小生^{だっしゅ}の手中にある】と彼に伝えたまえ。分かったかな？ …さっさと、退散^{ちくしょう}しないか、こん畜生^{ちくしょう}！ 【前線は小生^{だっしゅ}の手中にあるのだ！】」

やがて、彼は振り返ると、将校^{しょうこう}たちに向かって云いました。

「もう、じゅうぶんだ。彼らには何も分からないのだ！」

そして、音楽が再開されました。

10時、彼は自分の時計が正確であることを確かめてから、奥^{オーストリア}太利軍の塹壕^{ざんこう}に向かって叫んでいました。

「さあ、締め括りに、これからアナスタージ^{ミュージック}音楽の一節を聞かせてしんぜよう。…前代未聞^{ぜんだいみもん}の音楽！ さあ、さあ、さあ、…外科^{サージェリー・ミュージック}音楽だ！」

「俺^{われ}の作品だ。むしろ俺^{われ}の音楽的な手術^{オペ}だ。…俺^{われ}の手さばきは軽快で、患者に苦痛を与えない。

…諸君の塹壕は線が不規則だ…諸君の連隊長の避難小屋、これが痛腫なのだ。…脚から摘出してしんぜよう。…諸君の右翼に、機関銃の巣窟がある…雀蜂の巣を取り除いてしんぜよう…安全な手術だ。すべてはすっかり消毒済みだ。」

「どうして黙っているのだ、間抜けども。…そこの巣穴に逃げ込んだまま、あんぐりと口を開けて、聞き耳を立てておる。…歯も抜いてしんぜよう。俺さまは素晴らしい歯医者なのだ。…ベッティケ砲隊、前進！ …」

即座に、新人演奏家たちは、70ミリ口径ベッティケ砲の音程を調整しました。彼らはすべての機関銃と一斉射撃に援護されて、狂ったようにぶっ放しました。

ズドーン、グラン、グラン、ガラッ、ピュッ、パッ、パーン、パーン、パーン、カタ、カタ、カタ、プラーン、プラーン、グラン、ダダダダダダダ、ダダダ、ダダダ、ダダダ、ダダダダダダダ

「ホイッ！ 抜歯完了。最後の疾駆…杖や帽子や外套で混雑する衣装棚…さあ、どいた！ 今は、静粛にするのだ。全員部署に就け！ ひと眠りしよう！ …」

ところが、我々はすぐに眠れませんでした。奥太利軍前線から、甲高い怒声が聞こえてきたのです。敵の将校のひとりが塹壕から出て、味方の投光機に照らされて叫んでいました。

「伊太利人諸君！ 止めなければ、諸君の前線に我が砲兵中隊の集中砲火を浴びせてしんぜよう。」

アナスタージの大声が炸裂しました。

「俺は平気さ、白痴め！ …ダメ押しの音楽だ！ かかれ！」

そこで、外科的音楽の効果を倍増しながら、味方のベッティケ砲がふたたび火を吹きました。

翌日、奥太利軍が我が前線を爆撃しました。多数の担架…ところが、その晩にアナスタージはコンサート音楽会をもう一度開催しました。

友よ、ご覧のように、塹壕の中で我々は退屈を困っています。ヴェルトイバの前線をアナスタージ連隊長が鋼鉄の手腕と芸術家的横暴さで堅持するようになってから、とても快適にやっています。かかる天才的な音楽狂の伊太利人古参兵ならではの堅牢頑固な多血質の凶太さに、奥太利人たちは震え上がり消耗し萎えてしまっています。

親愛の情を込めてご多幸を祈ります。

E.T. マリネッティ 拝

マリネッティよりエニフ・ロバート様へ

《拜啓 靴下を有難うございます。届くのを待っています。靴下は大量に消費しています。この極北のような糞尿と泥濘の沼地では、本当に湿気と寒気だけが拷問です。

しかし、独自で確実な手法で、今日の小生はこの拷問と闘う考えがあります。塹壕内で一週間を過ごしてから、一週間の休暇をゴリツィアで過ごす予定なので、然るべき手順を踏んで、足の先から頭のとっぺんまで泥まみれになるのが愉快なぐらいです…（この瞬間の小生は、不潔

極まりない有様です。下水溝に転落した案山子のような格好です。) やがて、ほどほどの湯加減の入浴が5日間許され、それをたっぷりと満喫できるのですから。

ゴリツィアには素敵な温泉施設があります。我々の休暇用に、ちっぽけな別荘が用意されています。手榴弾で塀の崩れている別荘ですが、快適な寝床が(一人に2床)整備されていて、しかも腕の立つ調理師がいて、青空撞球用の穴まで完備している緑の庭園付きなのです…

大通りの喫茶店で、5時には牛乳紅茶を飲みます。新聞各紙や、『伊太利画報』や『フィガロ』や『未来派的伊太利』や『時報』などが読めます。

時々、叫び声が聞こえます。スラヴ人給仕がひとり城壁を伝って逃げ出します。舗道で一発の手榴弾が炸裂します。担架に幾人かの負傷者。彼らが担ぎ出されると、以前同様の生活に戻ります。

噂ではモンテ・サントから飛来するこれら手榴弾は、実に愉快なものです。この山は誰もが話題にしますが、通りの突き当りから、その姿かたちを見る事が出来ません。都市の安全に浸っているこの雰囲気の中、不意に手榴弾が飛んでくるのです。砲兵中隊の署名のない匿名書簡の雰囲気なのです。匿名書簡のように、実に危険なものです。信用する必要はない。

小生は苛立っています。というのは、毎週きまって雌牧羊犬〈ギャビー〉が、塵をたらふく喰った挙句に瀕死の病気に罹るからです。

我々のちっぽけな別荘の左側にも右側にも、高さ30メートルないし40メートルの塵の山が二つあります。我々の戦いの黄昏時に焼香して馨をたててくれるのです。

ところが、緑色のイゾンツォ川は、サラサラサラサラと絹のような音を立てています。日頃の温もりが感じられる優雅で官能的な田園の休暇と行楽を彷彿とさせる緩やかで静かなサラサラサラという音です。

征服した都市の征服した舗道を闊歩する時、脚に感じる典型的な喜びは、これほどにも大きいのです。…

ご健闘を祈ります。

F.T. マリネッティ 拝

エニフ・ロバートからマリネッティ様へ

《拝啓 今日わたくしは、イライラが募っています。わたくしは慾望と想像に辟易しています。

仰臥の姿勢が憎いのです。病床と身の回りのあらゆるモノが憎たらしい。薬壘を全部ぶち壊しました…硝子の割れる音はもう御免です。

出来ることなら、起き上がって、出征し、塹壕から発砲して、自決し、決着をつけたいものです。ああ、退屈したら、ありゃしない。

お便りを下さい。かしこ。

エニフ・ロバート 拝

14. ふたつの塹壕間の対話 (DIALOGO FRA DUE TRINCEE)

マリネッティからエニフ・ロバート様へ

《拝啓 貴女の不安には、何の根拠もありません。それは、きつと一過性のものに違いありません。実際の貴女はずっと元気が回復して、おそらく快癒もま近だと拝察いたします。

身の回りのモノに八つ当たりしないで下さい。それらを愛して、それらから貴女が受けとる想像を互いに組み合わせてみて下さい。そのようにして、ホンモノの芸術品を貴女は作り上げることが出来るのです。

6年前のこと、ローマの偉大な未来派画家バッラ⁶³⁾の画室で、その時たまたま手元にあったモノだけを互いに組み合わせて、生彩に富む見事な造形芸術作品を作り出すことに成功しました。額縁の半分、小生は素早く上がる一本の脚を作りました。もう半分で、片方の脚を作りました。額縁の4分の3で、胴体と前に伸ばされた2本の腕を作りました。固く黒い刷毛は風に逆立つ頭髪に、半分開いた紙巻煙草の金属容器は、走る男の険しい風貌になりました。

腕の端に、木の赤い燐寸で燃える手を象りました。やがて、小生の手になる〈走る男〉は、ロンドンのギャラリーで開催された未来派作品展では、1本の金属線で吊るされました。その時、コンビネーション・オブジェグループの最初の造形集団が呱呱の声を挙げたのでした。

小生の貧乏な友人ポッチョーニ⁶⁴⁾が語ったように、モノにはすべて固有の構造と心理が具わっています。かかるモノの構造には、類似性が豊富です。様々な類似性を組み合わせると、別の構造物や別個の有機体に到達します。その有機体は芸術的に生彩に富み、斬新かつ自律したものです。

貴女が憎んでいる薬壘や、色や形が様々な書物や化粧用具で、組み合わせ未来派造形作品を創作することが出来ます。

では、仕事に取り掛かりましょう。

小生には、泥濘以外何も存在しません…神が人間を泥で象られたように、新しい伊太利未来派世界を形作る希望を抱いています。

ご健闘を祈ります。

E.T.マリネッティ拝

15. 女性腹部の闘争 (LOTTA DI VENTRI FEMMINILI)

今日のわたくしは、病める腹部に何と拘っていることだろう。生活上、わたくしの腹部の内と外の状態を正確につぶさに観察すること以外の事は、あまり重要でなくなる。

ちょっとした苦痛の兆しを学者ぶって分析する。傷ついた脇腹の凹みを見ると、どうしても想

像をたくましくして、腫れて汚れた罨を色白の表皮に鎖された状態で養っている暗い生命力を洞察してしまう。

腸骨の溝——そこは、触れるとずっと薄くて、つるっと官能的な表皮が被っているが——わたくしは、魔力の怒りの結節がそこに巢食っているものと自分に云い聞かせなければならない。今朝、まだ寢床の中にいる時、凹みがあまりにはっきりしているの、ひょっとして刺すようなもっと激しい一撃の影に、痣のような兆候が出ているのではないかと眺めてみなければならなかった。何もなかった。健康な血液が速く流れる青い血管網が浮き出て、テカッと光って、のっぺりしている表皮だけだった。微妙に張った表皮と、静かな呼吸の律動と、ただ恥骨⁶⁵の茶褐色の震え方向に包み隠す均等に澄んだ一面の純白色。

では、何故その時そんなに苦しんだのか。ジュリーオですら、苦痛に苛まれていることを隠すために、どれほど激しい権力がわたくし自身に加えられているか想像していない。その巢窟の憎い中心部から苦痛をわたくしに投げつけてくる時、罨の存在を欺くことのない柔らかく無垢な外見のこの腹部に、わたくしは腹立たしい思いをしている。

臓器の左側屈曲部に身を潜めた病苦は、その黒ずんだ口で、わたくしの純潔な肉体の赤い繊維を破壊している。

痛ッ！ 何とひどく今朝は、わたくしの性悪な脇腹が痛むことだろう！ …それでも、今日のわたくしの精神は、気高く陽気に冗談を飛ばし攻撃的で…

この数日間で、わたくしは新たに多くの多種多様な人々と識り合った。

例えば、インド系英国人がいる。彼は万病向け軟膏一種だけを知っている単純居士だ。胼胝とか咳に効く実に愉快的な混合物…神秘的な軟膏がわたくしの病気にも効くかもしれないなどと、刀圭家じみた生真面目な口調で保証してくれる——きっと効きます！ と。

彼は、どろっとして黄色味がかったモノが少し載った汚い指——印度人種特有の黒さとヨーロッパ的不潔さを兼ね備えていたが——を一本わたくしの方へ差し出した。しかも、とんでもない伊太利語で、奇蹟のような効能を説明してくれた。我慢できない歯痛に苦しんでいたひとりの夫人が、数日前に勇気を出して、悪臭を放つ膏葉がたっぷりついた曰く云い難い指で歯茎を盛んに揉んでもらったことを思い出して、わたくしはぞっとなった。わたくしは一度も歯痛を経験したことがない。きっと、それは絶望的蛮勇の突出も辞さない類の痛さに違いない。片思いのようなものだ！ 嫉妬のようなものだ！ 分かりようがない…そして、ミスター・トーマスの色黒の指を口に含んでみる。

痛ッ！

笑うことすらできない。これは、大輪の肥沃な花だけが鼓動しているに違いないような場所に避難した憎々しいお前のせいではないのか?! お前は、わたくしの子供たちを台無しにする。それは、神々しい造形過程で形象をなし、息づいてくれるものとわたくしが期待を寄せる子供たちなのだ。お前のせいで、わたくしの母親としての興奮は台無しになる。そして、わたくしをズタズタに切り裂く。お前は、自分のものでないものは何ひとつ世話しようとしな。血まみれの受

胎の花冠をひとつひとつ歪めるように、お前はわたくしの考えを弾圧する…

それでも、駄目だ。少なくとも、お前はわたくしの考えに打ち負かされる。このわたくしが堅い意志力の表われである大きな顎を喰いしばっているかぎりは。

お前の意思に反して、わたくしは隣人の世話で、まだ愉しむつもりだ。これは、漲る健康に身辺を取り巻かれている病人の健気な敵討なのだ。その健康は、女性の微笑みでは澁刺として、機敏な男性の歩行では頑丈なものだ。

現時点では、それはひとりの英国人夫人だ。その醜さは名状しがたい。風変わりなタイプで、いつも奇抜な衣装を纏っている。学識豊かな知識人で、雄弁で、洗練されていて、ややこしい姿勢を多彩に変化させる。疲れを知らない口は本音を吐いたことが一度もなく、力強い声は、〈オ〉と〈エ〉の開母音が間延びしている。彼女は気障で、おまけに無頓着ときている。

彼女がゴワゴワの厚手羊毛地の派手な背広を着て、髪はオールバックにして、先端で黒い玉房が揺れている円錐形の小さな帽子を被り、尖った顎を突き出して通りを闊歩する姿を見ると、まるで滑稽そのものだ。

近寄ってみると、彼女が興味深い神経症患者であることが判明する。詮索好きで、全知全能に執着している。誇大妄想気味のこぼれを吐いて、無造作にホメロスを引用したり鉤股弦の定理に言及したり、外科学の最新成果を物知り顔で議論したりする。

わたくしが彼女のこぼれを初めて理解した時、彼女は詭弁の大河でわたくしを圧倒した。その時のわたくしは、専門的な高度の教養に自信がなかったので、まんまと罠にかかってしまった。幸いなことに、その場に居合わせた〈学者さん〉が、わたくしに向かって、彼女は不謹慎にも相当な出まかせを口にしてしていると注意を促してくれた…

だらしない凹凸のある彼女の子宮的なお腹は、寸胴型で、のっぺりとして、黒ずんでザラついているが、見てくれは浪漫的な胴着で保護されていた。彼女は性の燃える花柄模様、スピリチュアルな官能性のプラトニックな値段を殴り書きする。それを信じてくれる者を彼女は見つける。

これぞ一考に値する症例だ。威厳に溢れた学識に邪魔された頭脳を持ち主で、粗野な身なりでなおさら酷くなった醜女ならば、そのような彼女は人生と芸術の超現代的単純化を把握するにはむしろ不向きだ。それどころか、狡猾さを愉しもうと、両方を一度で関連付けて、そのちっぽけなどうしようもない帽子の道化じみた玉房に拘っているのだ。

ブヨブヨの腐った名門露西亞貴族——行く先で病める皮肉癖の襤褸を出し、失敬なことをブツブツ口走るのて有名であり、梅毒で歩行を余儀なくされた騎兵隊の正真正銘の生き残りだが、思いつきの渾名を辛辣に付与する男——その彼が、ある日のこと、彼女のことを〈去年夫人〉と名づけた。

事実、彼女は日本女性的なところがあつたが、東洋人ならではの可憐な色香も輝きもない〈去年夫人〉なのだ。〈去年夫人〉とは、神々しいしなをつくったプラトニックな恋の風刺画で、複雑怪奇な異国趣味の厳しい寄せ集めなのだ。

痛ッ！

だから、わたくしの身体的苦痛は、もうおさまることがないのだろうか？ …他の女性のすべて——男性の讚美の華麗な轍を軽快に通ってゆく姿をわたくしが目撃するような女性たちが、どうして健康で、このわたくしはそうでないのか？

彼女たちのお腹を、わたくしは見てやりたいものだ！ …いま通り過ぎようとしている灰色の小柄な女性を裸にしてやりたい。裸の尻を見てやりたい。造形的な肌の白さに胸が弾む。金髪の縮れ毛の豊かな輝きには、健康と享楽の身震い…その彼女も、予期せぬ折に躍り出て、すべての恋路に立ちはだかるような獅子身中の蟲を、おそらく複雑な生体組織の中に秘めているのだろう。

ひとりの貫禄たっぷりの名流婦人が登場した。彼女は、疲弊したお腹の重くたるんで波打つくすんだ皮膚をぎゅうぎゅうと甲冑型腰帯に押し込もうとしている。この女も裸にする…

茶褐色の表面が広がっている。黒ずんだシミのある弛緩した皮膚。それは、果肉がたっぷりすぎて果皮に亀裂を生じた果実のようだ。見事に膨らんでゆく生殖の膨張を経験したお腹は、不穏な重みの責め苦を人知れずジッと我慢してきて、今は然るべき休息にだらりと弛んで折り重なっている。

痛ッ！

わたくしを傷つける黒い怪物。もう少しの間、大人しくしておくれ。わたくしは、海辺でしきりと大きな眼をパチクリさせているひ弱な少女の茶褐色の神経症を裸にしてみたい。

痩せ細って、プルプルと震えている女たちも。ほんの微かな抱擁の接触にも反応する感受性。身震いと痲癩の感受性。鼠蹊部の緩やかな屈曲部に桃色の温かい皮膚。その脈打つ青い血管組織上には、薄っすらと産毛の刺繍がされているようだ。呼吸の律動に加速された生命力が神経質に脈打っている。快感に浸ると、健全な生理の摩訶不思議な混乱は、凶暴な愉悅のゆったりとした波動を生じるに違いない。全神経が張り詰め、男性からの熱い恵みの燃えるような響きを凝縮して、発熱にうなされた気分を増幅する…

この女性は、不均衡な風貌がわたくしに似ている。時々、その顔が不安で火照る。わたくしが自分を憔悴させる悲しい敵から解放されていたなら、おそらく生の執着度でも彼女に似ていただろう。

逆に、栄養満点の神経組織のこの太っちょ女は別だ。後で山盛りの給食さながらの膾炙をしながらの優良で一途な肉体を、滑稽にも露出させて憚らない。与え貰う数学的規則性がある。失った分を、わたくしはしっかりと取り戻す。決して喧嘩ごしの苛立ちをむき出しにすることは無い。罨を頑丈な胎内に隠し持っていない血まみれの生理学的均衡の女。

16. もうひとりの女性の腹部 (IL VENTRE DI UN ALTRA DONNA)

9月15日、サルソマッジョーレの暑く照りつける通りには、いつもと違ったざわめきを感じられた。ここ5日前から、伊太利各地からやって来た刀圭家学会の錚々たる名士が温泉旅館のホールに陣取って、実に重大な内密の問題を解決しようとしていた。

誰もが内密にと申し合わせてはいたが、それでも皆が噂していた。表向きは、サルソマッジョーレの産業力と名声を全世界に広めることが議題だった。実際は、かかる著名な刀圭家たちが呼ばれたのは、皇子エウタナージオ・デ・ルデリスの新妻で絶世の美女の闘病について判断を仰ぐためだった。億万長者の王子は、吝嗇で偏執狂だった。

素敵なデ・ルデリス王女は、ひどい腹痛を起こす摩訶不思議な病気に罹っていた。(刀圭家たちのことばによれば)彼女の腹部は、完全無欠で驚くほど均整が取れていた。

塩化ナトリウム沃素鉱泉は、臨床的問題を明確にしないまま、単に苦痛を和らげただけだった。ボセリーヌスやパランドラやポーコネットら閣僚たちが滞在していたので、ますます耳目を引く結果になった。彼らは、例年のように湯治目的でサルソマッジョーレに逗留していた。彼らは、重大な診断に立ち会いたいと申し出て許諾を得たのだった。

9月15日の2時に、また一人の自然科学の泰斗がサルソマッジョーレにやって来た。様々な相容れない見解と不首尾に終わった検査の混乱状態にあって、彼が決定的な打開策を提案してくれるものと誰もが期待し、ほとんど確信していた。

鋭い灰色の小さな眼が、二重レンズの眼鏡の背後に冷たく光っていた。鷲鼻の厳しい細面に顎鬚をたくわえ、赤毛の頭髪を五分刈りしたフィラーヌス先生は、世間で評判の問題児だった。というのは、彼の仕事は病院や大学以外の世界で、無償の博愛的慈善目的で(選挙目当てと云う人もあったが)実践されていたからだった。

温泉旅館の正面に、太陽が容赦なく照り付けていた。王女デ・ルデリスの寝室の熱気は半端ではなかった。たくさんの日よけと厚手の数々の布地の日蔭で、二台の扇風機が廻って風を送っていたが、一向に涼しくなかった。

「アンナ、」——王女が訊ねた——「何時かしら？ ぐっすりと眠っていたような気がするのだけれど。」

「3時でございます、王女様。」——小間使いは応えて云った——「15分すれば、教授連が診察にやって来られます。」

「まあ、うんざりね。考えてごらん…今回で20回目よ！ …科学は当てにできないわ…誰も頼りにならないし！ …殿下はあちらにおいでなの？」

「いいえ、奥様。お出かけになりました。王女様には、診察に立ち会う勇気が出てこないと伝えてくれとのことでした。帰還部隊の凱旋式に列席されます。」

「この日差しの中?!」

「そのようなご苦勞は避けていただきたいものです、殿下には申し上げましたが…本当に疲労困憊されています。もう3ヶ月も、ろくに眠っておられません。夜中、いつも部屋の中を歩きまわってられる物音がします。王女様のご健康状態を案じて、ご心痛で死んでおしまいになるのでは。」

「可哀想なエウタナージオ！でも、いくら愛してもらっていても、わたしの病は癒えてくれそうにないわ。」

「王女様、教授連がみえました。入ってもらいますか？」

「いいわよ、アンナ…扉を開けて、硝子窓も開け放しておくれ…暗くって困るわ。もっと明るくしてほしいの…コンニチワ！コンニチワ！」

開け放たれた窓から、太陽の暑気がどっと雪崩れ込んできた。黒い長上衣に眼鏡をかけた髭面の11名——3名は禿頭だった——が、威厳と威圧的な銜学臭を漂わせ、粘膜炎症性のゴロゴロ音をたてながら入り口から入ってきた。

後から、ポセッリーヌス、パランドラ、ポーコネットの閣僚3名が、水鳥と帆船の連打音をたてながら、自分たちの3個の太鼓腹に先導されて入ってきた。

「王女様、動かないで下さい…お願いします。お話をさらないで下さい…」

豪華な室内は、遠くで灼熱の鼓笛隊が吹きまくっていたので、ますます熱気と色合いと騒音のせいで燃え上がって、赤と緑と青色の波斯絨毯は、行者的意志力で電撃的に花が芽吹いた凄まじい庭園のように、教授陣の足下で焼けつくばかりになった。黒尽くめの教授陣は、変な波紋を周囲に投げかける多彩な発熱で上気して、勘が狂ってしまった。

寝台を取り巻くように彼らが座ると、白い蹄を連想させる黒い馬蹄形が出来た。その室内で、不可解な病気とそれを克服しようとする意志力が、脚で地面を蹴っては嘶いた。騎兵隊の騒音と陽光で熱せられた四足獣の糞の赤茶けた強烈な臭いのせいで、おそらく錯覚が生じたのであろう。

その一方で、扇風機が近くで騒々しい音を立てて唸り、飛行機のように遠くを飛んでいた。群衆の喝采を受け、風に膨らむ布と喧嘩ごしの温泉の眩き。

フィラーヌス先生が最後に立ち上がって、王女の見事な裸体を指差しながら、きっぱりと断言した。

「病人は、どれも悪くはない。症状は重いが絶望的ではない。悪性腫瘍などではなく、単なるインジカン尿症⁶⁶⁾に間違いはない。腸内腐敗の典型的症状である。化膿が高度に進行したために、生理痛が起こっている。」

「何度かの高圧腸内洗浄⁶⁷⁾を推奨する。ところで、この洗浄法が大腸の末端のみを浄化・解放し殺菌するだけであるとの立場で、わたしは同僚と意見が一致している。大腸はとても長く、全体に屈曲していて、交通不可能な袋状の凹凸がある。当面の問題は、全面的洗浄である。」

「不潔な管腔に棲息する微生物は、普通は腸内液体が入ってきた物質の消化・吸収に備え、次いでその作業で摩滅した組織の修復に備える手助けをするという通常の責務を果たす代わりに、

どうしたわけか不意に痲癩^{かんしゃく}を起こすように思われる。微生物は物質をうまく分解せず、それらを有毒な物質に変えてしまい、一度これら有毒物質が吸収されて血液循環系に運ばれてしまうと、修復どころか、消化器の働きを阻害・混乱させ、時にその臓器を破壊することもありうる。この微生物は、やがて一番脆弱^{ぜいじやく}な臓器を特別に攻撃するような手の施しようがない奇妙な狡猾^{こうかつ}さを見せ付ける。このような腸管常在微生物に、胃を経由して別個の微生物が加わり、それらが下降して仲間を助け、破壊行為に加担する。新しい伝染性疾患を決定する能力はないが、それに先行する中毒症状を悪化させることをいとも簡単にやってのけるのは、一連の腐敗原因微生物である。…」

「閣僚^{かくりょう}の3個の太鼓腹^{たいこぼら}は高軒^{たかいびき}をかき、扇風機^{せんふうき}と張り合っていた。

「腸は、本来無菌で清浄なものである。腸内菌の繁殖は、愚かな食餌^{しょくじ}作法と胃の滅菌能力不全の帰結である。胃が微生物を過剰に含む食物を浄化乾燥して殺菌できなくなると、特殊な治療法が必要となる。」

「わたしは種々有効な治療法を確定するに先立って、この特異で例外的なインジカン尿症の原因を解明する努力をしたい。」

「王女^{プリンセス}デ・ルデリスは、とてもお若いながら、すでに何度も出産を経験されている。しかし、それが、じゅうぶんな原因とはいえない。」

「閣僚^{かくりょう}の3個の太鼓腹^{たいこぼら}は高軒^{たかいびき}をかき、扇風機^{せんふうき}と張り合っていた。

「王女^{プリンセス}は当世の流行を追って、」——フィラーヌス先生が続けて云った——「窮屈^{きゅうくつ}な組み紐^{レーシング}コルセット^{コルセット}をもとより完璧な柳腰^{やなぎこし}にずっと着用されてきた。」

「そのために胃腸の位置がずれている。正常でない腸の下垂は、絶対に否定できない。下垂している横行結腸⁶⁸が円弧状^{アーチ}に歪^{ゆが}んで、異常な方向をとっている。これが原因で、便秘^{べんぴ}が日常化し、絶えず宿便^{しゅくべん}が累積^{るいせき}して、インジカン尿症が慢性化している。」

「事実、王女^{プリンセス}がうとうとされている現時点で、我々はこの若い見事な肢体^{しだい}が、病巣を明らかにする典型的な吐き気を覚える理由を確認することができる。ここで、あなた方はわたしにこう反論されるであろう——いったい健康な若い女性の体内で、腸管の蠕動運動⁶⁹が過度に亢進^{こうしん}するか、あるいは微弱^{びじやく}過ぎるかして、しかも内容物の停滞^{ていたい}を妨げない程度なのは何故かと。実際には、この停滞現象は腸管の膨大部^{ぼうだいぶ}で生じ、それがきっと不都合を生じているに違いない。結論として、わたしは経口投薬も一般的経肛門洗淨^{せんじょう}もまったく無効だと判断する。開腹腸管切断術を実施する必要がある。」

「そりゃ、いけない！」——先生たちは、叫びながら抗議した。

「馬鹿げたことを！ …」

「考えられない！ …」

「王女^{プリンセス}は、美しい全身をぴくっとさせて、先生たちを沈黙させた。

「覚悟は来ています！」——彼女は云った——「心積もりは来ています。腸の手術をお願いしたい！」

「お願いですから、身動きしないでいただきたい！」——先生たちは一斉に大声で云った。

「金輪際、もう止めてもらいたい。…わたくしは身動きしますし、これからもそうします。手術して下さらないのなら、爪でお腹を引き裂いてでも、自分で手術してみせます！ …」

「ほらご覧なさい、フィラーヌス先生、」——ドクターたちは喝破した——「患者の神経衰弱と疑問の余地のない心悸亢進が、嘔囉仿謨使用の妨げになるかもしれませんぞ…」

「どうして嘔囉仿謨なのです。麻酔抜きです。手術して下さい。さあ、どうぞ！」

ドクター
刀圭家たちは、むかつ腹を立て、最後の反論に賭けた。

プリンス
「王子が反対されます。」

プリンス
「王子はお認めになりますまい。」

「デ・ルデリス王子は、死んでおしまいになりましょう！」

押し黙ったままの王女の柔らかな顔に、涙が伝った。

その瞬間、大きな叫び声がサルソマッジオーレの熱帯的な空気を引き裂いた。一斉に人垣が来た。混乱したわめき声。病人の部屋は、巨大な聞き耳となっていた。

こんとん
混沌とした中に、叫び声が幾つか目立った。

「死んでいる！」

それから、

「人殺しだ！ 暗殺者だ！」

それから、

プリンス
「王子が死んで…」

やがて、

「ともかく捕まえろ。」

やがて、

「未来派だ…。」

そして、ようやくのこと、

「デ・ルデリス皇子が暗殺された。」

第74突撃隊所属の未来派特攻隊員が、彼を短剣で刺し殺したのだ。

ドクター
刀圭家たちは、茫然自失の有様だった。

かくりょう
閣僚の3個の太鼓腹は麩をかいていた。

フィラーヌス先生が立ち上がって、こう云った。

「もはやあらゆる禁止が解かれたからには、すみやかに手術を敢行することを推奨する。」

せんふうき
扇風機は、その速度を百倍加速させながら破顔一笑していた。

病人の微笑みがこぼれた。それはまるで痩せたカルソ地方に咲く一輪のグラナダの花のようだった。

やがて、彼女は寝台から一挙に裸のまま飛び起きると、苦悶の身振りを見せる黒尽くめのドクター
刀圭家たちをかき分け、開け放たれた露台の方へと足取りも軽やかに突き進んだ。

温泉旅館へ驚愕とお祭りの大騒動がドッと押し寄せた。下手人の特攻隊員を追いかけてゆく群衆のせいで、凱旋部隊の行進は阻止されてしまった。

掲げた両手と婦人帽と馬が後脚立ちしたために下敷きになった子供たちの動揺とぶり返しや、将校たちの叫び声や歩兵のカラコロという音…

その間も、刀圭家たちは王女を思い止まらせようとして、叫んでいた。

「狂気の沙汰だ。」

「頭が変なのだ。」

「気が狂っちゃったのだ。」

ところが、素っ裸の王女は元気いっぱい、決然と露台に出ると、身を乗り出して叫んだ。

「わたしは覚悟が来ています。さあ、やって下さい。」

兵士たちは暗殺者のことも殺された人間のことも忘れ、見事な裸体姿の女性の一風変わった登場に驚きもしないで、やんやの喝采を送った。

完 (FINE)

註および参考文献

本稿の翻訳に使用したイタリア語原文テキストは、Enif Angiolini Robert (1886-1976), *Un ventre di donna: romanzo chirurgico con Filippo Tommaso Marinetti* (Facchi, Milano 1919) で、今回はその第11章から終章16章(第165頁から第221頁)までを本邦初訳として試みに日本語に訳してみた。ちなみに、本連載邦訳(その2)註記26(京都外国語大学研究論叢 LXXXV 第272頁)《ドゥランテ式注射》の項が意味不明のままであったが、この度イタリアのフランチェスコ・ドゥランテ Francesco Durante (1845-1934) 考案の《ドゥランテ療法》(結核病巣にヨードを注射する外科的治療法) [加藤勝治編『医学英和大辞典』1972 南山堂 p. 488] であることが判明したので、ここに追記しておく。

55) 75ミリクルップ砲——クルップとは、エッセンに^{ちゆうてつ}鑄鉄工場を創設し、〈耐火^{るつぽ}坩堝〉を考案したフリードリヒ・クルップ Friedrich Krupp (1787-1826) を創業者とするドイツ随一の鉄鋼業者クルップ家のこと。クルップ砲とは、その孫ベルタと結婚し、〈ドイツ帝國の兵器工場〉三代目の家督を継いだグスタフ・クルップ Gustav Krupp von Bohlen und Halbach (1870-1950) が、第一次世界大戦中に製作した〈ベルタ砲〉のこと。クルップ製鋼合資会社は、その後ナチに接近して、第二次世界大戦ではヒトラー政権を支えた。

56) フィアット製重機関銃——Fiat-Revelli Modello 1914 のことで、自動車メーカー〈フィアット〉社が第一次世界大戦中(1914-18)に生産し、イタリア軍が使用した毎分400-500発連射可能な弾丸口径6.5mmの水冷式機関銃。〈マンリヒャー=カルカーノ〉社製弾倉を装着。全長118センチ、総重量17キロ+22.4キロ(三脚部)。

57) ヴァージニア葉巻^{シガール}——〈ヴァージニア〉という命名は、タバコの葉の産地である米国ヴァージニア Virginia 州に由来するが、世界各地で栽培されているタバコの品種。一般にタバコの葉は熱乾燥法と自然乾燥法によって、その色と薫りに独特の個性が出てくるが、〈ヴァージニア〉葉はブレンドせずに単一のままで、甘みと強い薫りを味わうことができると言われている。

- 58) 『ノルマ Norma』 — 作曲家フランツ・リストに見出されたソプラノ歌手マルチェッラ・センブリッチ (1858-1935) が1907年に録音した《清教徒》からのアリア〈Qui la voce sua soave〉や、フィレンツェ出身のソプラノ歌手ルイーザ・テトラツィーニが1912年に録音した《清教徒》からのアリア〈Vien diletto〉、および米国生まれのソプラノ歌手ローザ・ポンセル Rosa Ponselle (1897-1981) が1919年に録音した〈Casta Diva〉を聴けば、ベル・エポック時代におけるオペラ作曲家ヴィンチェンツォ・ベッリーニ Vincenzo Bellini (1801-1835) の人気のほどがよく理解できよう。『ノルマ』は、A. スーメ原作の演劇をもとに F. ロマーニの台本によって作曲され、1831年にミラノのスカラ座で初演された2幕5場の歌劇。
- 59) 『ジョコンダ Gioconda』 (1876) — アミルカレ・ポンキエッリ Amilcare Ponchielli (1834-1886) が、V. ユゴーの『バドヴァの暴君アンジェロ』をもとに A. ボーイトの台本によって作曲し、1876年にミラノのスカラ座で初演された4幕の歌劇。1898年にローマのコスタンツイ劇場でデビューしたバリトン歌手ティッタ・ルッフォ Titta Ruffo が、得意のレパートリーとして、テノール歌手ベニヤミーノ・ジリーと共演した録音を〈Great Voices of the Opera〉シリーズ CD で聴くことができるが、19世紀末から20世紀初頭の歌劇芸術全盛期の雰囲気^{オペラ}を推察することができる。
- 60) 『セビアの理髪師 Il barbiere di Siviglia, ossia l'inutile precauzione』 (1816) — ルイーザ・テトラツィーニ Luisa Tetrazzini が1911年に録音した《セビアの理髪師》からのアリア〈Una voce poco fa〉や、〈獅子の声〉の異名をとったバリトン歌手ティッタ・ルッフォ Titta Ruffo (1877-1953) とパスクワレ・アマート Pasquale Amato (1878-1942) が録音した《セビアの理髪師》からのアリア〈Largo al factotum〉を聴いてみれば、ロッシーニ Gioacchino Rossini の人気^{オペラ}がベル・エポック時代絶大であったことが解る。『セビアの理髪師』は、P. ボーマルシェの演劇『セビアの理髪師』をもとに C. ステルビーニの台本によって作曲され、1816年にローマで初演された傑作オペラ。
- 61) ロッシーニ Gioacchino Rossini (1792-1868) — ベル・エポック時代を代表するテノール歌手ジョヴァンニ・マルティネッリ Giovanni Martinelli (1885-1969) は、ローマで1910年プッチーニの歌劇『西部の娘』に出演した時、プッチーニ自身から注目され、またヴォルフ＝フェッラーリ Wolf-Ferrari やザンドナーイ Zandonai の歌劇をロンドンのコヴェント・ガーデン劇場で初演した。その彼が1917年にロッシーニの歌劇『ウィリアム・テル Guglielmo Tell』を歌った録音を〈Great Voices of the Opera〉シリーズ CD で聴くことができる。
- 62) ワーグナー Richard Wagner (1813-1883) — ベル・エポック時代のワーグナー歌手といえば、アルマ・マラー夫人やリヒャルト・シュトラウスから賞讃されたロッテ・レーマン Lotte Lehmann (1888-1967) に尽きる。彼女は、1910年ハンブルク帝国劇場でデビューして以来、1914年から1938年までウィーン帝国劇場のプリマドンナとして、『ラインの黄金 Rheingold』ではフライア役を、『ローエングリン Lohengrin』ではエルザ役を、その他レオノーレやジークリンデ役を演じて喝采^{シスターツ・オーバー}を浴びた。1914年録音の『ローエングリン』中のアリアを〈Great Voices of the Opera〉シリーズ CD で聴くことができる。
- 63) バッラ Giacomo Balla (1871-1958) — トリノ出身の未来派画家で、1910年ウンベルト・ボッチョーニ Umberto Boccioni (1882-1916)、カルロ・カッラ Carlo Carra (1881-1966)、ルイージ・ルッツォ Luigi Russolo (1885-1947)、ジノー・セヴェリーニ Gino Severini (1883-1966) と共同で機械文明を讃美する造形的^{テクノロジー}前衛芸術運動^{アヴァンギャルド}を起こし、『未来派絵画技術宣言』による速度をモチーフ化した抽象絵画を早くから発表した。
- 64) ボッチョーニ Umberto Boccioni — イタリア未来派運動を代表する画家・彫刻家で、1910年『未来派彫刻のテクニクに関する宣言』を発表して、自己の理論を実践、流動的連続性をもつ量塊による即物的力動表現^{ダイナミズム}を模索した。
- 65) 恥骨^{ちこつ} pubic bone — 骨盤前面部分を形成する左右一対の骨で、外面は粗く、内面は滑らか。坐

- 骨と腸骨に恥骨枝によって結合し、恥骨下枝の角度は平均 70°、肛門拳筋と内閉鎖筋の起始部。
- 66) インジカン尿症 indicanuria (青いオムツ症候群 blue diaper syndrome) — 生後間もなくオムツが青く染まる疾患で、1962 年初めて Michael Drummond らが報告。選択的トリプトファン小腸内吸収障害に起因し、ためにトリプトファンが大腸に達して、腸内細菌で分解されインドール化合物をつくり、これが吸収されると、尿中にインドール乳酸・インドール酢酸・インジカンなどが排出され、それらが酸化結合するとインジゴ青が合成される。高カルシウム血症や尿中磷増加が検査の指針となる。
- 67) 高圧腸内洗浄 intestinal lavage (irrigation of colon, cleaning enema) — かつては赤痢や疫痢に罹患した小児の腸内有毒物を排除・洗浄目的に行われたが、現在では大腸 X 線検査、大腸内視鏡検査、消化管手術の前処置として糞便除去目的に実施される。太目のネラトシカテーターか直腸ブジーを直腸に 10-15 センチ挿入して、40-50 センチの高さに設けたイリゲーターより微温湯か温生理食塩水か 2% 薬用石鹼液か 5 千倍逆性石鹼液の洗浄液を 40°C で 100-200ml/ 分の速度で注入。成人では、300-500ml で下行結腸に、1,200-1,500ml で盲腸に達する。その後、イリゲーターをはずし、洗浄液をカテーターを通じて排出する作業を、流出液がきれいになるまでくり返す。かかる処置は、患者に多大の苦痛を与える。
- 68) 横行結腸 transverse colon — 腹部中央を前面に突き出すかたちで緩やかに下垂しながら横断する腹膜に固定されていない大腸部位で、長さ約 50cm、肝臓右葉下面に接する右結腸曲から脾臓に接する左結腸曲間に位置する。後腹壁に横行結腸膜で付着し、前側は大網が付着する。
- 69) 蠕動運動 peristalsis — その代表的なものは、食道・直腸間の全腸管壁が、管腔内容物の物理的・化学的刺激によって口側の輪状筋の収縮を起こし肛門側の弛緩にいたる一連の不随意的反射反応で、かかる運動は腸管内神経叢知覚神経や介在神経や運動神経に起因し、同時に自律神経と中枢神経の影響下に進行する。

以上の註記作成には、以下の諸文献の関連項目を適宜参照した。

和田攻ほか編『看護大事典 Igaku-shoin Nursing Dictionary』医学書院 2003

南山堂『医学大辞典 MANZANDO'S Medical Dictionary』MANZANDO Co., Ltd. Tokyo 1985

『最新医学大辞典 ISHIYAKU SHUPPAN'S Medical Dictionary』医歯薬出版株式会社 1990

『ステッドマン医学大辞典 STEDMAN'S English-Japanese Medical Dictionary』(株)メジカルビュー Medical View 社 2004

